



コミュニティ・スクールシンポジウムを開催しました

コミュニティ・スクールのこれまでの成果と課題を踏まえ、次の一步を考えるため、令和8年1月30日にRa i B o Cホールでシンポジウムを開催しました。

第1部 研究協力校による実践発表 ～9年間を見通したエージェンシーの育成～

与野西北小学校 地域とつながりながら「自分で動く力」を育てる

与野西北小学校では、学校・家庭・地域が協働し、登下校の見守りや小中合同あいさつ運動、花いっぱいプロジェクトなどを展開しています。こうした活動により地域と関わる経験を重ねる中で、子どもの主体性がはぐくまれています。

児童を対象にしたアンケートでは、「地域や社会をよくしたい」「地域や社会で起こる問題や出来事に関心がある」などの項目で向上が見られました。



花いっぱいプロジェクト

あいさつ運動では、初めは緊張しましたが、毎回続けるうちに顔を覚えてもらい、「ありがとう」「頑張っているね」と言ってもらえるようになりました。地域の中に自分の居場所があると感じています。



児童

八王子中学校 地域課題を自分事にし、行動へつなげる



土のう作りの体験

八王子中学校では、防災教育を柱に、避難所運営訓練や小中合同あいさつ運動、緑化ボランティアなどを実施しています。地域と共に活動する中で、地域を支える当事者としての意識が高まっています。

生徒を対象にしたアンケートでは、「ボランティア活動等への参加」「物事をやり遂げようとする意識」などの項目で向上が見られ、生徒のエージェンシーがはぐくまれてきていることがわかりました。



地域住民

避難所訓練や地域行事に中学生が参加してくれることで、地域の雰囲気が大きく変わりました。一生懸命取り組む姿を見て、とても頼もしく感じています。声をかけ合う関係ができ、中学生が身近な存在になりました。

この両校の実践発表を踏まえ、第2部では学校・家庭・地域がどのように子どもを支えていくのが議論されました。(裏面につづく)

シンポジウムの様子を
公開しています

右の市ホームページで当日の動画や資料を
御覧いただけます



地域とつながり、子どもを育てるコミュニティ・スクール

コミュニティ・スクールへの提案 ～「点」から「面」のつながりへ～

会場アンケートでは「安心して子どもを預けられること」「地域の大人が学校に関わること」への期待が寄せられました。議論では、学校や地域がバラバラに一つの「点」として関わるのではなく、地域全体で「面」として子どもたちを支える関係性が示されました。

学校だけでは解決が難しい課題を地域と共有し、ともに考えていくことで、学校と地域が力を合わせて子どもを支えていける地域になるといいですね。



多くの保護者は、日々の子育てで精いっぱい、悩みを抱えている方も少なくありません。だからこそ、学校をきっかけに、家庭・学校・地域が対等につながり、支え合う関係を築いていくことが大切だと感じています。

コミュニティ・スクールの課題と方策 ～それぞれの関わりを、どうつなげていくか～

学校に関わる活動に参加しようと思っても、時間的な制約があり、継続的に活動するのが難しいという方が多いという現実的な課題に対し、無理なく関われる工夫や、関わる意味を実感できる仕組みづくりの重要性が共有されました。

協働活動への参加のハードルを下げるために、短時間や単発など関わり方の選択肢を増やすことで、無理なく参加できる環境を整えていきたいです。



活動を一緒にするだけの「連携」から、課題を共有し、話し合いながら取り組む「協働」への転換が必要です。参加する方のモチベーションを大切にしながら、活動の意義を少しずつ広げていきたいと考えています。

未来のコミュニティ・スクール ～共に学び、共に育つ「共育」の場へ～

これからのコミュニティ・スクールは、学校、家庭、地域のそれぞれが持つ力を持ち寄り、共に学び、共に育つ「共育」の場です。家庭や地域の団体との協働は、その大切な土台となります。

今後の発展には、既存の課題の「何を正すか」、不足する人材や機能の「何を埋めるか」、そして活動の継続性を高める仕組みの「何をつくるか」といった三つの視点での検討が重要です。その検討の場に子どもが参画する機会をつくることで、地域への愛着をはぐくむことにつながります。



子どもは、親や先生との「縦の関係」、友だちとの「横の関係」、そして地域の方々との「斜めの関係」の中で育ちます。地域の皆様がそっと寄り添い、しなやかに支える。そんな三方向の関係性が、子どもの成長には欠かせません。

今回のディスカッションを通じ、コミュニティ・スクールは、子どもを真ん中に据え、大人も共に学び、共に育つ場であることが共有されました。